

小学校ではまだ3年生ですが、日能研では今月から4年生の学習がスタートします。

まずは動画を見て学習する習慣を身につけましょう。

#### 4年生の目標

- ・文章…説明文・物語文・論説文・詩の、難度の高い文章を、分析的に読解できるようにする。
- ・語句…さまざまな言葉にふれ、豊かな語彙を身につける。

文章題の分析的読解とは、ただ漫然に文章を読むのではなく、説明文であれば、話題や筆者の主張や具体例、また物語文であれば、場面や登場人物の心情などに注意して読むことを言います。判読の際、どのような点に気をつけて文章を読めば良いのかを動画で確認してください。動画の中で難しい言葉の説明をしたり、文章の内容を説明したりしています。その説明を見て、文章の読み方を身につけていくようにしましょう。

語句の分野では、漢字の音読み訓読み、部首、画数、筆順、熟語の組み立て、対義語・類義語、三字熟語・四字熟語、ことわざ、慣用句、外来語、和語など、幅広く学習していきます。ことわざ、慣用句、四字熟語を覚えるときには、似た意味の言葉や、反対の意味の言葉、また関連する言葉を合わせて覚えるようにすると、一気に語彙が増えます。漢字の知識や文法事項は動画での説明を聞いて、理解し、覚えるようにしてください。

#### 毎回のテキストの構成

- ・文章題（説明文・物語文・論説文・詩の分析的読解）
- ・語句

答えはすべてノートに書き込みましょう。間違えた問題は赤できちんと直すことが大切です。そのとき、最初に書いた答えを消さないよう、自分の書いた答えの横に新たな答えを書くなど、自分がどのような間違いをしたのか、どのように直してマルとなったのかをはっきりとわかるようにしましょう。

#### 動画視聴時のお願い

保護者の方もお子様と一緒にご覧になることをおすすめいたします。記述問題のマルつけなど、お子様をご自分で判断できない場合もあると思います。また、お子様が学習習慣を身につけられるよう、「解く→直す」の流れの定着にご協力ください。

各回の構成は、文章題の「導入」→「判読」→「設問の解説」、語句の「導入」→「設問の解説」です。動画は随時一時停止して視聴していただければと思います。

### ◆第1回 説明文の分析的読解（1）／語句1（漢字 音読み・訓読み）

文章題では説明文を学習します。この回では、説明文を読むときの基本となる、話題、筆者の主張、具体例、段落構成について学習します。

語句は漢字の音読み・訓読みの学習をします。音読み・訓読みとは何かをおさえ、間違えやすい漢字もしっかり学習します。

### ◆第2回 説明文の分析的読解（2）／語句2（部首・画数・筆順）

文章題では説明文を学習します。この回では、前回と同様、説明文を読むときの基本となる、話題、筆者の主張、具体例、段落構成について学習します。

語句は部首・画数・筆順の学習をします。部首は7つに分類することができます。漢字辞典を使って、テキストに出てきたもの以外も調べるようにしましょう。

### ◆第3回 説明文の分析的読解（3）／語句3（対になる漢字を重ねた熟語）

文章題では説明文を学習します。この回では、前回と同様、説明文を読むときの基本となる、話題、筆者の主張、具体例、段落構成について学習します。また、段落の要点のまとめ方も学習します。

語句は対になる漢字を重ねた熟語の学習をします。ここでは、二字熟語の、上の漢字と下の漢字の組み立てについて学習します。

小学校ではまだ3年生ですが、日能研では今月から4年生の学習がスタートします。

まずは動画を見て学習する習慣を身につけましょう。

#### 毎回のテキストの構成

- ・前半部分(2 ページ～ 53 ページ) …授業で扱う問題です。全問動画で解説をしています。
- ・補充問題(54 ページ～125 ページ)…家庭学習用の問題です。動画で解説をした問題と同じ単元の問題が収録されています。動画で学習した後で対応する回の問題に取り組んでください。

式や図、答えはすべてノートに書き込みましょう。間違えた問題は赤できちんと直すことが大切です。そのとき、最初に書いた答えを消さないよう、自分の書いた答えの横に新たな答えを書くなど、自分がどのような間違いをしたのか、どのように直してマルとなったのかがはっきりとわかるようにしましょう。

#### 動画視聴時のお願い

まずは自分の力で問題を解いてから動画を見ることをおすすめします。ただし、その単元の内容に関する予備知識が全くない場合は、動画から先に確認していただいて結構です。その場合、必ずもう一度解き直すにより定着が良くなります。また、先に問題を解いて間違えた場合も、動画を確認した後で解き直しをしてください。お子様が「解く→直す」の学習姿勢を4年生のうちに身につけることも大切です。

#### ◆第1回 整数の計算Ⅰ

計算は何よりもまず正確に答えを出すことが大切です。現段階では無理に暗算をする必要はありませんので、筆算をしっかりと書いて正確に答えを出す習慣をつけてください。また、計算の工夫ができるようになることも重要なポイントです。

- 必ず押さえてほしい問題・・・**1**、**2**、**3**、**4**
- 宿題・・・第1回補充問題

#### ◆第2回 整数の計算Ⅱ

第1回に引き続き「整数の計算」に関する応用問題を扱います。問題文をよく読み、条件を正確に理解することを意識してください。

- 必ず押さえてほしい問題・・・**1**、**2**、**4**、**6**
- 宿題・・・第2回補充問題

### ◆第3回 整数の計算Ⅲ

今回は“あまりが出るわり算”がテーマで、その中でも非常によく出題される文章題を扱っています。  
単に解法を覚えるのではなく、「なぜそのような答えになるのか」をよく理解してください。

○必ず押さえてほしい問題・・・1、2、4、5

○宿題・・・第3回補充問題

本年度より4年生灘特進算数特訓の授業が始まります。これより5年生にわたり、中学受験に必要な単元を少しずつ扱ってまいります。

まず、前期(2~7月)と春休みにおいては、小数の計算全般、数列などの規則性、平面図形、和と差に関する文章題などを勉強していきます。灘中をはじめとする最上位校を志望するうえで、高学年の内容を一部先取りしていく場合もございます。

【例題】はすべて動画で扱っていますので、まずはこの【例題】をしっかりと理解した上で、ほぼその類題と言える【練習問題】に取り組んでみてください。【練成問題】は【例題】から派生したものや応用的な問題を中心に収録しており、できるだけ多くの問題を動画で扱っています。

#### 毎回のテキストの構成

##### ・【例題】【練習問題】

毎回のテーマへの導入にあたるものが【例題】、その数値替えや類題にあたるものが【練習問題】です。【例題】は全問動画で解説をしています。

##### ・【練成問題】

動画で解説をした問題と同じ単元の問題が収録されています。

##### ・【A問題】【B問題】

主に宿題として扱っているページです。【A問題】は【例題】を中心としたレベル、【B問題】は少し発展的なレベルになっています。

式や図、答えはすべてノートに書き込みましょう。間違えた問題は赤できちんと直すことが大切です。そのとき、最初に書いた答えを消さないよう、自分の書いた答えの横に新たな答えを書くなど、自分がどのような間違いをしたのか、どのように直してマルとなったのかがはっきりとわかるようにしましょう。

#### 動画視聴時のお願い

【練成問題】は、大半の問題が解説されているので、動画を止めて一度自身の力で解いてみたあと、正解不正解にかかわらず、解説動画を見てください。

ただし、その単元の内容に関する予備知識が全くない場合は、動画から先に確認していただいて結構です。その場合、必ずもう一度解き直すことより定着が良くなります。また、先に問題を解いて間違えた場合も、動画を確認した後で解き直しをしてください。

## ◆第1回 小数の計算(1) 数列(1)

### ① 【例題】と【練習】

【例題】はすべて動画が用意されています。

【例題 1】 小数のたし算・ひき算・かけ算。たし算・ひき算の筆算は、小数点をそろえて書き、整数の筆算と同様の計算をしていきます。それに対してかけ算の筆算は、小数点をそろえて書く必要はなく、右端をそろえて書きます。

【例題 2】 小数のかけ算に関する文章題。問題の意味をよく考えて式を作りましょう。

【例題 3】 等差数列①。一定の数ずつ増え続ける(減り続ける)数列を「等差数列」といいます。等差数列は、はじめの数(初項)と増えていく数(公差)によって決まります。

「○番目の数を求める」「△は何番目の数になるのか」という問題は、植木算の考え方を uses。○番目の数を求めるときは、はじめの数に公差を(○-1)回たせばよいということを理解していきましょう。

【例題 4】 等差数列②。「等差数列の和」についてです。この考え方は今後、いろいろな場面で使われます。動画を見て理解したら、「等差数列の和」の公式については、しっかり定着することを心がけましょう。

各【例題】の動画を見て理解したら必ず【練習問題】に自力で取り組んで答え合わせをし、間違っていたらどこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は再度【例題】の動画を見てみましょう。

### ② 【練成問題】

【練成問題】はいくつか選択的に動画で扱っていますので、その問題についてはしっかりと理解をしてください。

④は、どの列も5ずつ増えていく等差数列になっています。どの列になるかは、一番右端の第5列をもとにさぐっていきましょう。

⑥と⑦は、等差数列の和の問題の中で特殊な部類になる「1からはじまる奇数の和」についての問題です。1から始まる「□番目までの連続する奇数の和」は、 $\square \times \square$ となることは、知っておくといろんな場面で有効です。

### ③ 宿題などについて

【練成問題】の後【A問題】、【B問題】がありますが、ここは宿題となります。【B問題】はレベルの高い問題もありますが、がんばって取り組んでみてください。

また、小数計算の練習も各自進めていってください。

## ◆第2回 小数の計算(2) 数列(2)

### ① 【例題】と【練習】

【例題】はすべて動画が用意されています。

【例題 1】 10倍・100倍・10分の1倍・100分の1倍

整数を10倍、100倍、…としていくと、末尾に0が1個ずつつけたされることとなりますが、これは小数点の位置が右にずれていくととらえることができます。同様に小数を10倍、100倍、…としていくと、小数点が右に1けたずつずれていきます。反対に10分の1倍、100分の1倍すると、小数点は左に1けたずつずれていきます。

【例題 2】 小数のわり算① わりきれる場合の小数のわり算です。小数のわり算は様々な「決めごと」があります。まずは動画の解説をじっくり見て、筆算の仕方を身につけてください。

【例題 3】 三角数。数列の各項のとなりどうしの差が、等差数列になっているような数列を「階差数列」といい、とくに $\boxed{1}$ のように、各項が「1から□までの和」の形になっているものを「三角数」と呼んでいます。

この「三角数」は慣れたらある程度暗記しておいた方がよいでしょう。とくに10番目の「55」、13番目の「91」などはいろんな問題で使用する場面があります。

$\boxed{2}$ はこの三角数を元にして解くことになります。

【例題 4】 平方数。同じ数どうしの積の形( $\square \times \square$ )となっている数を「平方数」と呼んでいます。これらを小さい順に表した数列も「階差数列」になっています。平方数は前回の練成問題で扱った「奇数の和」の内容にも関連があるので、合わせて復習しておくといよいでしょう。

各【例題】の動画を見て理解したら必ず【練習問題】に自力で取り組んで答え合わせをし、間違っていたらどこで間違ったかをよく確認して、再度解き直しをするということを徹底してください。わかりにくくなった場合は再度【例題】の動画を見てみましょう。

### ② 【練成問題】

【練成問題】はいくつか選択的に動画で扱っていますので、その問題についてはしっかりと理解をしてください。

$\boxed{3}$ は、第1行が平方数になっていることに注目します。

$\boxed{4}$ は、規則がわかりやすいように、区切っていきます。1個、2個、3個、…と組み分けしていくといよいでしょう。

$\boxed{5}$ は、各段の和をていねいに調べていきましょう。平方数がなることがわかります。

$\boxed{7}$ は、各段の右端が平方数になっていることに気づきますか？この平方数を元に考えていきま

よう。

③ 宿題などについて

【練成問題】の後【A問題】、【B問題】がありますが、ここは宿題となります。【B問題】はレベルの高い問題もありますが、がんばって取り組んでみてください。

また、小数計算の練習も各自進めていってください。